

ちょこっと大阪

大和田 昌

「大阪府の鳥 百舌鳥」

大阪府の鳥は「もず」と指定されていますが、大阪に「百舌鳥」と云う地名があり、その由来は仁徳天皇が河内石津原に古墳の造営工事を行っていたところ、鹿が走り出てきて人に襲い掛かりそうになった時、突然倒れこみ、調べたところ、鹿の耳の中から一羽の百舌鳥が飛び立っていった。人に危害が及ばない様に、百舌鳥が鹿の耳を食い裂いて人命を守ったらしく、その働きと勇気をたたえ、この地は百舌鳥耳原（もずみみはら）と呼ばれるようになった。百舌鳥は府の鳥候補として、最も高い得点数を獲得した点と、府下でもふつうにみる事が出来ること、また仁徳天皇陵とも関係があり、堺市の百舌鳥町の地名由来になっていることなどから、1965年に府・堺市の鳥に指定されている。

百舌鳥の生態は、森林や河畔林、農耕地などに生息し、動物食で昆虫、甲殻類、両生類、小型鳥類、小型哺乳類等を食し、樹上高所から獲物を探して襲いかかり、再

び樹上に戻り捕えた獲物を食べる。他の鳥とは違って、百舌鳥の足の力は弱く獲物を掴んで食べる事が出来ず、その為に小枝や棘状の物に獲物を突き刺し固定させておいて、空腹時にはそれを食べ、満腹の時は残しておいて後で食べにくる「はやにえ」という百舌鳥特有の行動があるようで、これは冬の食糧確保の為にだと考えられているが、実際は他の鳥に食べられてしまっていたり、そのまま放置していることが多いらしい。スズメより一回り大きい体長20cm位の百舌鳥が獲物を見つけて高所から急降下して、鋭い嘴で獲物を一気に仕留めるところを見た事があるが実に豪快だった。百舌鳥は獲物を見ると本能的に捕まえる習性を持っている鳥なのである。



※写真 <http://duckie-g.com/xsrv-blog/archives/cat139/cat48/>